

大悟法利雄 DAIGOBOU TOSHIO

大悟法利雄 略歴

歌人、大分県生まれ。明治31年12月生まれ、平成2年11月没。享年91歳。

大悟法利雄氏は、大正11年に沼津で初めて若山牧水に出会い、以後牧水の高弟、助手として牧水宅に同居し、『創作』や『詩歌時代』の編集助手として青年期を沼津で過ごしました。

牧水没後は、『牧水全集』の編集をはじめ『若山牧水伝』『牧水新研究』等、数多くの著書を出版して師の顕彰に努め、沼津市若山牧水記念館の初代館長に就任するなど、牧水研究家として不滅の業績を残す傍ら、自身も『翼』『伊豆』『薔薇の散歩』等の歌集12冊を発行しています。

氏は晩年、しばしば柿田川を手漕ぎの船で廻行、湧水噴出のさまをつぶさに観察し、その美しさに感銘を受け、「人里の秘境」と称し、『柿田川讃歌』40首(歌集『飛魚とぶ』に所収)を詠み、人々にその素晴らしさを広めました。

大悟法利雄 略年譜

明治31(1898)年	12月23日、雄太郎、ツルエの長男として大分県下毛郡大幡村(現・中津市)に生まれる。
大正 6(1917)年	3月、大分県立中津中学校卒業。この頃から作歌を始める。
大正11(1922)年	7月、初めて沼津の若山牧水を訪問する。
大正12(1923)年	3月、牧水の弟子・助手となり、沼津の牧水宅にて起居を共にする。
昭和 3(1928)年	9月17日、牧水逝去。その後『創作』と『牧水全集』の編集に当たる。
昭和 4(1929)年	8月、『牧水全集』(全十二巻)が出版され、翌年8月完結する。
昭和 8(1933)年	4月23日、守田繁吉五女静子と結婚する。
昭和16(1941)年	12月、歌集『第一歌集』を出版する。
昭和33(1958)年	5月、『若山牧水全集』(全十三巻)を出版し、翌年6月完結する。
昭和51(1976)年	7月、『若山牧水伝』を出版する。
昭和60(1985)年	9月、沼津東ロータリークラブによる本城山公園の牧水歌碑建立に際し、選歌を行う。同年町の有志と柿田川を訪れ歌を詠み、『柿田川讃歌』として歌集『飛魚とぶ』にて発表する。
昭和62(1987)年	11月、沼津市若山牧水記念館初代館長に就任する。
平成 2(1990)年	9月、歌集『九十歳前後』を出版する。同年11月26日、逝去。享年91歳。



柿田川讃歌抄

地図の番号はそれぞれ短歌を詠んだ場所を示しています。

- ① 太古よりこの豊けさにここに湧く泉頭(いづみがしら)にけふも息呑む
- ② 目に湧く百二十万トンこの水を瀝りて永久(とほ)に伝へざらめや
- ③ 若鮎とあまごの群か影なしていま湧水の釜に近づく
- ④ 静もるやまた湧き立ちて黒々と砂の躍れるこの湧釜
- ⑤ さ緑に白玉の小花ちりばめてしづきつつそよぐ三島梅花藻
- ⑥ 水藻は見る見る消えてしづきたる川藻さ緑に靡きつつあり
- ⑦ 川とんぼ一つ草葉に憩ひたる姿にも見るこの川の味
- ⑧ 若葉のなかみなぎり走る柿田川を思ひつつ寝しゆゑの夢らし
- ⑨ ここよりは靡き見えねどしづきつつ続く川藻のとりどりの色
- ⑩ 妻つれて必ず来むぞこの川に影映しつ富士晴るる日に
- ⑪ 山翡翠(やませみ)の時に見るとふこの川にせめてとわれは翡翠(かはせみ)を待つ
- ⑫ ひとすちの雪糸引きて夏の朝の富士上なり柿田川の富士
- ⑬ 今朝晴れし柿田川の富士見せまじと起きぬけのわれを友のみちびく
- ⑭ 遂に師は知り給はざりき湧水(わきみづ)のみなぎり走るこの柿田川
- ⑮ 天地(あめつち)のゆたけき心ここにありこの富士の山この柿田川



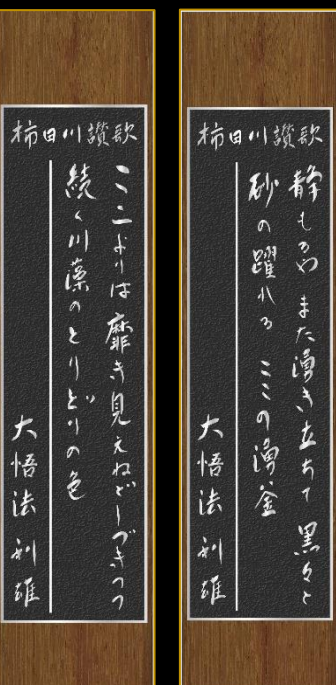
CIC 清水町役場

町制施行60周年記念

大悟法利雄歌碑設置事業



解説サイン内容 ↑



<解説サイン>芝生広場せせらぎ付近



← 制作歌碑

柿田川の歌を詠む大悟法利雄氏の「解説サイン」及び「歌碑」二句を柿田川公園内に設置しました。

本事業は、町制施行 60 周年事業として作成し文化薫る公園の整備として行われたものです。

<歌碑>

堂庭口遊歩道付近



第2展望台付近



作成者 清水町 社会教育課・都市計画課